# 波浪中非線形運動・荷重解析ツール NMRIW\_ver.2の開発と精度検証



構造安全評価系 \*松井 貞興 村上 睦尚 花岡 諒 岡 正義

### 1. DLSA(全船荷重・構造一貫強度評価システム)

構造設計 ・・・船舶はその一生の中で様々な積荷状態、海象下におかれるが、 想定されるあらゆる状況でも構造の安全性を担保するべき

#### → 直接荷重·構造一貫解析

- ・規則作成時に行われている解析を評価対象船に対して直接行う
- ・直接的であるがゆえに、近似・省略を行っている箇所が少なく、汎用性が高い ・設計者が解析を行うことで、物理現象の理解の一助に(技術力の向上)



・ 労力がかかる

・海象や積付条件の設定など、まだ手段が確立していない部分が大きい

### 1. DLSA(全船荷重・構造一貫強度評価システム)

#### → DLSAシステム

・一貫解析をシームレスに行える一連のプラットフォームを用意、解析手順を提示 ・大型船型、新形式船型の設計における標準プログラム化を目指す



## 2-1. NMRIW\_ver.2について

- Nonlinear Motion in Regular and Irregular Wave
- NMRIで開発された船体運動・荷重推定プログラム
- ユーザーインターフェース、アニメーションを完備
- ・ 6自由度非線形ストリップ法
- ・ あらゆる波条件を設定可能
- 水面衝撃力及び弾性モードを計算
  →スラミング・ホイッピング現象の再現が可能
- 水圧分布や加速度等を FEM(NASTRAN)のインプットとして出力可

## 2-1. NMRIW\_ver.2について

### GUIを完備。形状を目視しながらOFFSETの作成が可能



2-3. NMRIW ver.2の計算手法



3-1. 線形プログラムとの比較検証

NMRIW\_ver.2(非線形ストリップ法)と NMRIW-Lite(線形ストリップ法)の比較



→ NMRIW\_ver.2における微小波高計算はLiteによる線形計算と等価

3-1. 線形プログラムとの比較検証

コンテナ船の6自由度運動の周波数応答関数(斜め追い波、10kt) 実線がLite、マーカーがNMRIW\_ver.2による結果



※NMRIW\_ver.2では入射波の波高を0.01mに設定 NMRIW\_ver.2とLiteの流体力計算は同じ理論に基づく

## 3-2. 実験との比較検証

### 6600TEUコンテナ船のバックボーン模型実験



#### 実験条件

- ・全波方位(0~180度の30度刻み)
- ・規則波及び不規則波中試験

#### 計測項目

- ・6 自由度運動
- ・水圧(没水部の水圧、フレアブのスラミング衝撃水圧)
- ・波浪荷重(ホイッピングを含む縦曲げ、水平曲げ、捩りモーメント)

・水圧の時系列
 向い波、波高10m
 船速15knot
 波長船長比0.8





・縦荷重の時系列
 向い波、波高10m
 船速15knot
 波長船長比0.8





・縦曲げモーメントの応答関数 (船速18.4knot)



・縦曲げモーメントの高周波成分の標準偏差 (船速18.4knot)







実験と同一の不規則波列を発生させ、NMRIWで応答の標準偏差を計算



#### ・標準偏差の比較(有義波高10m、平均波周期10.5s)







Exp.

### 4-1. ホイッピング影響の検証



4-1. ホイッピング影響の検証





・NMRIWで得られた係数の平均値:1.36

・論文※にて7隻のコンテナ船に対する同様の解析により得られた係数:1.35

※大型コンテナ船のホイッピングによる波浪中縦曲げモーメントへの定量的影響の推定 (JASNAOE2016春季 河邉寛他)

## 5. 今後の展望

## ●NMRIW\_ver.2の推定精度の向上

- ·不規則波中計算
- ・斜め追い波中の安定性
- NMRIW\_ver.2の計算速度を活かした 種々の検討手法の確立
  - ・NMRIWのみを用いた簡易構造評価手法の確立
  - ・非線形性を考慮した最悪短期海象の選定
  - ・荷重の観点から見た船型の最適化